

令和2年度 第8回 昭島市社会教育委員会議・要点録

開催日時／会 場 令和2年11月12日(木)午後7時00分～9時00分 アキシマエンス 302
出席者 谷部議長、松本副議長、稲垣委員、小原委員、齋藤委員、指田委員、
二ノ宮リム委員、信國委員、濱田委員、吉村委員
事務局 川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

＜配付資料＞

資料 1 令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会社会教育研究大会東京大会
実行委員会第6回実行委員会 次第 他

- ・月間行事予定 11月
- ・社教連会報 No.87
- ・令和2年度歴史文化セミナー 妖怪にみる時代の変化

2 議 題

(1) 関係委員会委員等の選出について

※ 青少年問題協議会委員、健康づくり推進協議会委員を決定

(2) 令和2年度昭島市社会教育関係委員研修会について

※ 例年2月に実施している社会教育委員、公民館運営審議会委員、スポーツ推進委員、
青少年委員の合同研修・交流会。今年度の幹事は社会教育委員会議だったが、新型コロナ
ウイルス感染症拡大防止対策のため中止を決定

3 協 議

(1) 第31期テーマについて

議 長 前期社会教育委員会議では、テーマを「対話から地域力を育む社会教育」掲げた。新
型コロナウイルス感染症の影響で会議も開くことができず建議としてまとめることが
できなかったため、引き続きこのテーマを継続して欲しいとの意向がある。したがって
当面はこれでやっていきたいと思うが、さまざまな状況を鑑み変更も可能である。新し
い委員の皆さんには「活動の記録」を熟読していただき、どんどん質問していただき
たい。

(2) 市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について

議 長 前期の「活動の記録」の中に「市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議」に
ついて、その経緯は各回の状況に付いて記されている。各委員から少しあきしま会議に
ついてご発言願いたい。

委員 社会教育の様々な活動をされている方が参加し、自分たちがやっていること、困っていること等出していただいて、同じテーブルを囲んでいるメンバー5~6人と意見交換などをする。私は土曜補習についてなど話させていただいたことがある。あきしま会議の特徴は、大学生や中学生の若い方の参加があることだ。いろいろな世代の人が参加し、交流できるところが面白い。

委員 私は発表者として参加した。自分たちの活動をまとめるというプロセスが発表前にあり、ただ「頑張ってきた」ではなく、「人にどうやって伝えるか」を考えることができ、まとめる、発表するという別々の行為だが、発表者にとっては自分が大切にしてきたことを再確認できることは重要だと思った。報告をまとめるプロセスの中でも学ぶことができたと思う。そして、あきしま会議ではグループの人たちからの様々な質問などから対話が生まれ、発表した人も聞いた人双方がそれぞれ学び、何かが生まれる感じがした。私はアメリカから帰国してあきしま会議に参加したわけだが、「昭島は元気だ」と思ったのが一番の印象。外から見ると昭島は知られていないと感じる人が多いが、いろいろな人がいろいろなことをやっているとわかった。でも、何もやっていないという人も参加したら、何かできるかもしれないという元気の素をもらえる場のように思った。

委員 思い返すと感慨深い。活動の記録にはあきしま会議の趣旨が記されているが(p.12)、これはこれまで4回やってきて、この記録をまとめるときに皆さんと整理したものだ。

あきしま会議の趣旨はつぎのとおりである。

- ①社会教育委員・市職員が市民の声を聞き、市民のニーズを把握する場であり、市民が社会教育行政にかかわる人たちに意見や想いを表明する場
- ②今ある社会教育活動を互いに共有し、つながりをつくる場
- ③昭島市の未来について語り合う場

あきしま会議の発端となる私たちの問題意識は、「市民のニーズを反映する社会教育とは何か」ということにあった。社会教育委員の役割は社会教育行政をよりよくしていくために意見を述べたりすることだとしても、市民のニーズについて社会教育委員がわかっていなければ機能しないし、市職員も市民のニーズがわからなければどういうものを企画したらよいのかわからない。では、それを聞く場を設けようということでも生まれたものだ。方法としてただ単に来てくださった方の話を聞くというだけでは上から目線になってしまい、誰かに来ていただくにもその人たちに意味のあるものでなければならないということで、②③の趣旨が付け加わってきた。しかし、声を聞くにもさまざまな講座が市でも開催されているが時間のある決まった人しか来ない、アクティブに動いている人はむしろ来られない、という状況の中、どうしたら来てもらえるのかを考えた時に、自分たちのやっていることを伝えられる場であればその人たちにとっても意義を感じていただけるのではないかと考えたわけだが、それは実現していると思う。こちらから発信するのではなく、その方々がやっていることを話していただく、今は話していただくことでそれぞれが活動を振り返ったり、みんなで理解をしてつながったり、発展したり、という世代を超えたものもできてきたが、さら

にその先、未来について語り合う、社会教育行政に提言していく、昭島市全体に提言していくということにつながっていくとよいと思う。

委員 あきしま会議の前に実施したブロック研修会の中で、講師の先生から「参加のはしご」の話をしてもらったことがとても印象に残っている。参加者が「誰かがやってくれるだろう」「市に話せば、市が解決してくれるだろう」という目線ではなく、自分たちのことは自分たちで解決していくこと（主体性）や、自分たちの活動が将来の昭島市をよくしていく活動につながっていくのだというような気付きをあきしま会議の中で得てもらいたいと思っている。ひと口に参加と言っても様々な「参加のしかた」があるわけだが、この社会教育委員会会議は、「参加のはしご」の上の部分を目指すものだと思う。つまり、自分たちで考え、企画運営し、その反省も自分たちで行い、次に活かそうということだ。そこから手法を検討するなどして、市民のニーズを聞くだけでなく、団体の抱える困りごと、自分たちで解決する方法を同じ問題で困っているほかの団体と一緒に考えることで解決できないかなど考えた。あきしま会議を通して、私たちなりに捉えていた市民のニーズは、実際のところそれほど市民は望んでいないことがわかったり、「つながりたい」と多くの人が考えているのではないかと思っていたが、自分たちの中だけでよいのだと考えている市民がいたり、社会教育委員もあくまでも想像するしかできなかったことが、実際に話を聞くことでわかってきた。その矢先に新型コロナウイルスにより人が集まることが危ぶまれる状況に陥ってしまった。今期の課題は、まず新しい開催方法の模索だと思うが、ずっとあきしま会議をやってきた者としては、あきしま会議の灯を消したくない。いい方法を見つけ、形にしたい。

議長 私が一番印象に残っていることは、子どもの主張意見文コンクール作品集「未来をひらく」である。子どもたちが子どもたちの言葉で「伝統文化を大事にしよう」とか市への提案など書かれていて感銘を受けた、それで、第3回目に小中学生などの参加を呼び掛けてみたいという話になったと思う。子どもたちもしっかり意見を持っていると思うので、それを大事にし、若い人たちが意見を言える場が後世に続いていけばよいと考えている。

委員 どうすれば昭島がもっとよくなるか、住みやすい町になるかなどをしっかりと考え、課題を見つけて解決するにはどうしたらよいかなどを書いている。代表作品以外にもいい作品がたくさんある。

議長 昨年拝読した際にとってもいいものが多く、感心した。

委員 あきしま会議では、お互い知らない者どうしが話し合うわけだが、意外と共通点や似たような課題があり、互いにためになるものを発見できるので、また参加したいと思うようだ。一つの団体がやっていることに共感して一緒に企画したいという話になるような場は珍しい。車人形の会の方のお話では、内向的な子が人形操作する人の姿は表には見えないことから、イキイキと人形を操作していたというような話を聞いて、高齢者でもやれるのではないかなど、全然違う団体がつながれるきっかけの場になっていると思った。あきしま会議は他人の意見を否定するのではなく、受け入れ、建設的な発言をする場で、高度な場だと思う。今後今までの形態でやるのは難しいが、他の団体の話も聞

きたかったという声も多いので、パネルディスカッションのように少し距離を取ってやれる方法など、場合によっては形を変えてでもやっていきたいと思う。

委員 参加者の感想を見ると、他の活動グループの実情を知るよい機会となったとか、昭島市の中の熱い方々とお会いすることができ、よい刺激をもらったなどと書かれている。発表者が自分たちの活動について話し、それについて様々な人たちがいろいろな意見や感じたことを返してくれることで、その後の活動が発展していくのだと思う。また、話を聞いて「よかったところ」「もっと聞きたいと思ったところ」など付箋に書いて1枚の紙に貼り発表者に渡しているが、それを自分の団体に持ち帰って検討し、さらに活動が発展されるとよいと思う。これからの話になるが、あきしま会議の回を重ねていったときに、あきしま会議に参加したことによって自分たちの団体がその後どうなってきたか、どんな効果があったかなどを発表できる場もできるとよいと思っている。

議長 何かの機会に参加団体の後日談もぜひ聞いてみたい。それらをまとめ資料にするのもよいと思う。今後のあきしま会議の実施方法について、次回以降検討したい。

4 報 告

(1) 令和3年度関東甲信越静岡社会教育研究大会東京大会について(10/20)(資料1)

議長 令和3年度の東京大会の開催方法についてだが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては通常開催とせず、1日目の基調講演とトークセッション(またはパネルディスカッション)のみに縮小したものにする予定。ただし、オンライン開催の可能性も検討する。通常開催の場合、アトラクションとして「**体操」を候補として挙げている。座ったままでも体を動かせる体操だそう。基調講演は東京大学の牧野篤先生にお願いする予定。分科会は、来年度ブロック幹事市である5市を中心に5つの分科会を検討中。

○関東甲信越静岡社会教育研究大会について

東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、山梨、長野、静岡が参加。輪番で研究大会を開催しており、令和3年度は東京での開催が決定している。昭島市は今年度・来年度と東京都市町村社会教育委員連絡協議会(都市社連協)副会長市であることから研究大会の実行委員会に参画している。令和3年度の研究大会の日程は次のとおり。

- 開催日 令和3年11月11日(木)・12日(金)
- 会 場 府中の森芸術劇場他

(2) その他

※例年年初に行われる賀詞交歓会の中止について

次回

12月14日(月)午後7時より アキシマエンス 302・303

1月21日(木)午後7時より 市役所3階庁議室